

第二十六回「児童・生徒の平和メッセージ展」詩部門 小学校高学年の部 最優秀賞
(平成二十八年沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品)

ふいーわ しけー てーしち
平和ぬ世界どう大切

金武町立金武小学校 六年 仲間 里 咲

「ミーンミーン」

今年も蟬の鳴く季節が来た

夏の蟬の鳴き声は

戦没者たちの魂のように

悲しみを訴えているということ

耳にしたような気がする

戦争で帰らぬ人となった人の魂が

蟬にやどりついているのだろうか

「ミーンミーン」

今年も鳴き続けることだろう

「おじいどうしたの？」

左うでをおさえる祖父に問う

祖父の視線を追う私

テレビでは、戦争の映像が流れている

しばらくの沈黙のあと

祖父が重たい口を開いた

「おじいは海軍にいたんだよ」

おどろく私をよそに

「空からの弾が左うでに当たってしまったんだよ」

ひとりごとのようにつぶやく祖父の姿を

今でも覚えている

戦争のことを思い出すと痛むらしい

ズキンズキンと・・・

祖父の心の中では

戦争がまだ続いているのか

今は亡き祖父

この蟬の鳴き声を

空のかなたで聞いているのか

死者の魂のように思っているのだろうか

しかし私は思う

戦没者の悲しみを鳴き叫ぶ蟬の声ではないと

平和を願い鳴き続けている蟬の声だと

大きな空に向かって飛び

平和の素晴らしき尊さを

私達に知らせているのだと

人は空に手をのばし

希望を込めて平和の願いを蟬とともに叫ぼう

「ミーンミーン」

「平和ぬしけー世界どう大切」